

防災教育における課題や現状、今後の取り組むべき方向性

防災プロジェクト学習で「考える力」「生きる力」を実現

鈴木敏恵 千葉大学教育学部特命教授
s-toshie@ca2.so-net.ne.jp

■ これまでの防災教育……与えられた学び

- ◇ 教師主導の授業で「知識」「スキル」
- ◇ 集団避難訓練
- ◇ 単発的で継続性がない
- ◇ 講演、イベント

現状:

学力低下への懸念

課題(目指す学力):



知識の活用力、応用力

■ これからの防災教育……意志ある学び

- 1、自ら考える力
- 2、イマジネーション
- 3、情報獲得力、状況判断力

俯瞰・部分知から全体知、関係知

自分で気づき、自分で情報を得、
自分で考え、先を読み、判断し、
動ける、声が出せる、他者へ伝えられる！

プロジェクト学習・ポートフォリオ評価・セルフコーチング

学力 + 考える力 + 防災力 = プロジェクト学習「防災教育」

資料:フィンランドに学ぶ「学力向上」 NEW教育とコンピュータ 80P 鈴木敏恵著
:フィンランの環境、国語の教科書
朝日新聞:「私の視点—自助力がつく防災教育を」
毎日小学生新聞 :自分の命を守ろう—危険発見編

<http://www.toshie-suzuki.net/>



私の視点

震度を超す大きな揺れの地震が各地で相次いでいる。地震のように、いつどんな状況下で起こるか分からない災害に対し、子どもたちは、自分で身を守る術を身につけているのだろうか。被害を最小限に食い止める対策として行政による「公助」、地域やNPOなどによる「共助」、自分の力による「自助」が考えられるが、災害弱者の子どもたちに対する「自助」が、おびなりになっているよう

に思えてならない。学校教育の現場で自助力を高めるために、旧態依然とした防災訓練を見直し、「考える力が身につく防災教育」を進めることを提案したい。

全国各地の多くの学校では、画一的な内容の避難訓練をいまだに続けている。

今の子どもたちは、塾やけいこに通っていることも多く、親や教師が一緒ではない場面が増えている。塾のある駅前の雑居ビルの細い階段で、帰り道にあるガラス張りのコンビニや自動販売機の前で、グラツときたら……。このとき必要なのは、自分の目で状況を判断する。その上で、自分の家がどんな状況になるか、倒れた家具や散乱するガラスなどをイメージして赤ペンで書き込んでいく。さらに自分が外に脱出する動線を青ペンで記入する。赤と青の動線が交わり、ガラスの上を裸足で歩いて逃げることになりかねない。このように、逃げられない

いと、身近な自分の家もいかに危険な状態になるかを初めて実感した。最後に、学習の成果として「防災ハンドブック」を作成する。家具の固定法、避難路の選び方など、みんなの役に立つ提案を結集させたものだ。保護者や近隣の公民館にも配ったこと

できるはずはないだろう。集団訓練は、とすれば一人ひとりの考える力を奪うことさえあるだろう。防災プロジェクト学習は一人ひとりに考える力をつけ、現実社会に対応できるようにするものである。考える力こそ「生きる力」だ。地震だけでなく大災害に備えて、この子どもたちの防災意識を高める新しい学習法が各地に広がることを願っている。

◆子どもを守る 「自助力」がつく防災教育を

例えばこんな具合だ。非常ベルが一斉に鳴り、教師の「さあ机の下に潜りましょう」「静かに早く校庭に整列しましょう」という呼びかけに、子どもたちは素直に従う。こうした従来の避難訓練は、大人がきちんと導いてくれることを前提としているため、十分な訓練とはいえないのだ。

断し、自分の命を守るために行動できる力——「自助力」に他ならない。実際にこの「自助力」を

家でどんな状況になるか、倒れた家具や散乱するガラスなどをイメージして赤ペンで書き込んでいく。

で、地域に防災意識を広げるきっかけにもなった。子どもたちは普段「こうしなさい」「してはいけない」と大人から指示され、動くことに慣れきっている。大人の言う通りしていれば褒められるといった環境で、災害のときだけ「自分で考えて判断し、行動しなさい」と言われても

例えはこんな具合だ。非常ベルが一斉に鳴り、教師の「さあ机の下に潜りましょう」「静かに早く校庭に整列しましょう」という呼びかけに、子どもたちは素直に従う。こうした従来の避難訓練は、大人がきちんと導いてくれることを前提としているため、十分な訓練とはいえないのだ。

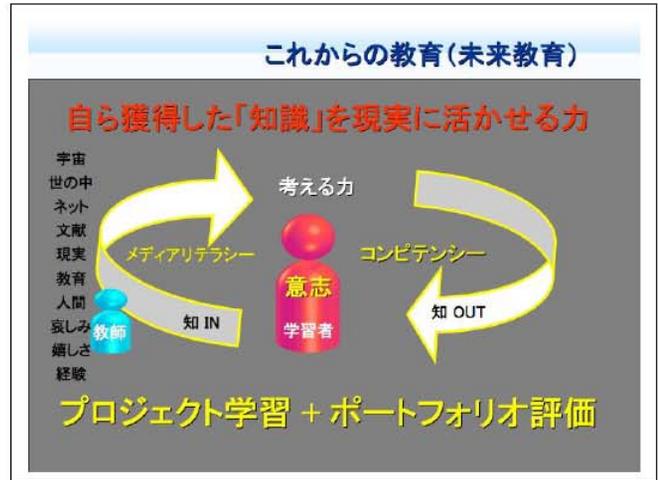
断し、自分の命を守るために行動できる力——「自助力」に他ならない。実際にこの「自助力」を

家でどんな状況になるか、倒れた家具や散乱するガラスなどをイメージして赤ペンで書き込んでいく。

で、地域に防災意識を広げるきっかけにもなった。子どもたちは普段「こうしなさい」「してはいけない」と大人から指示され、動くことに慣れきっている。大人の言う通りしていれば褒められるといった環境で、災害のときだけ「自分で考えて判断し、行動しなさい」と言われても

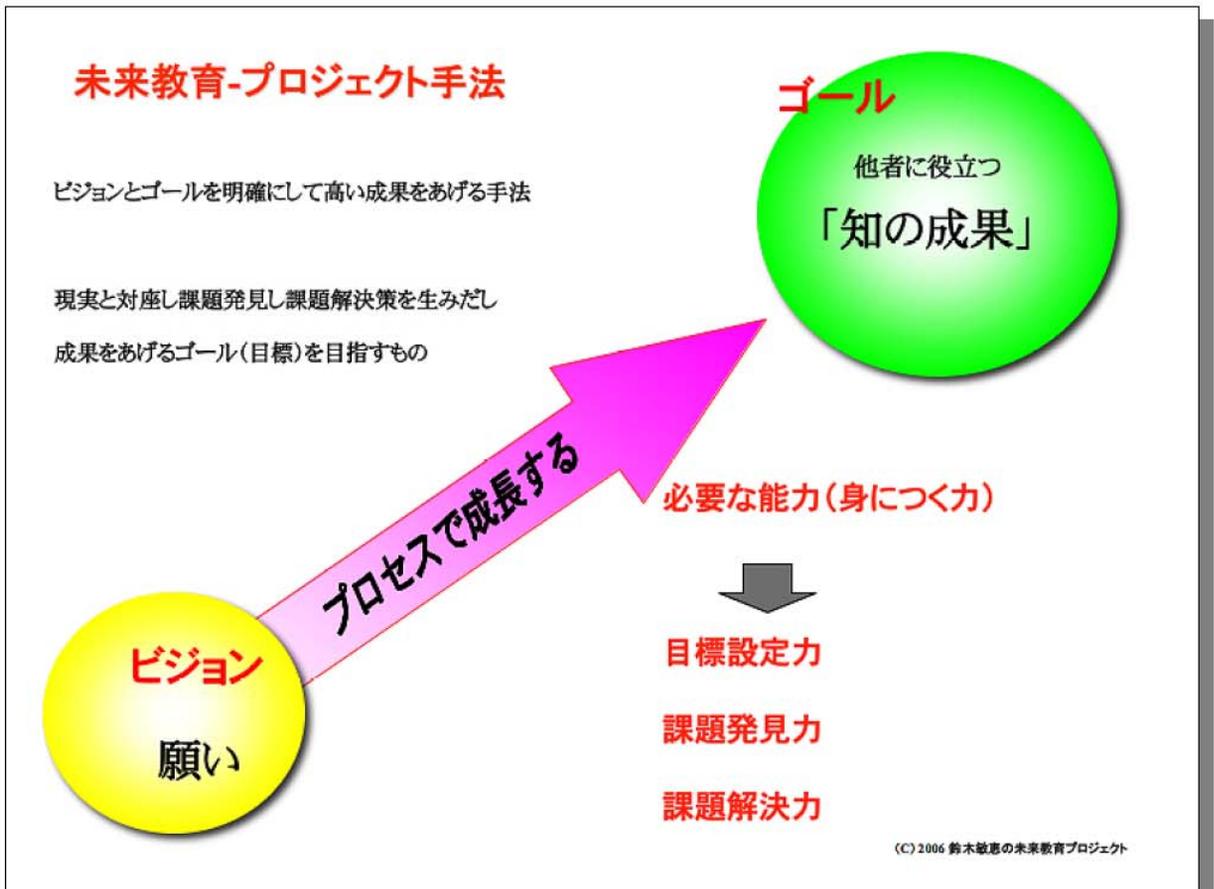
投稿規定 1300字程度。住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記し、〒104・8011朝日新聞社企画報道部「私の視点」係へ。電子メールはsiten@asahi.com 二重投稿 採否の問い合わせは遠慮ください。本社電子メディアにも収録します。原稿は返却しません。

■ 与えられた学びから、意志ある学びへ



■ プロジェクト学習とは

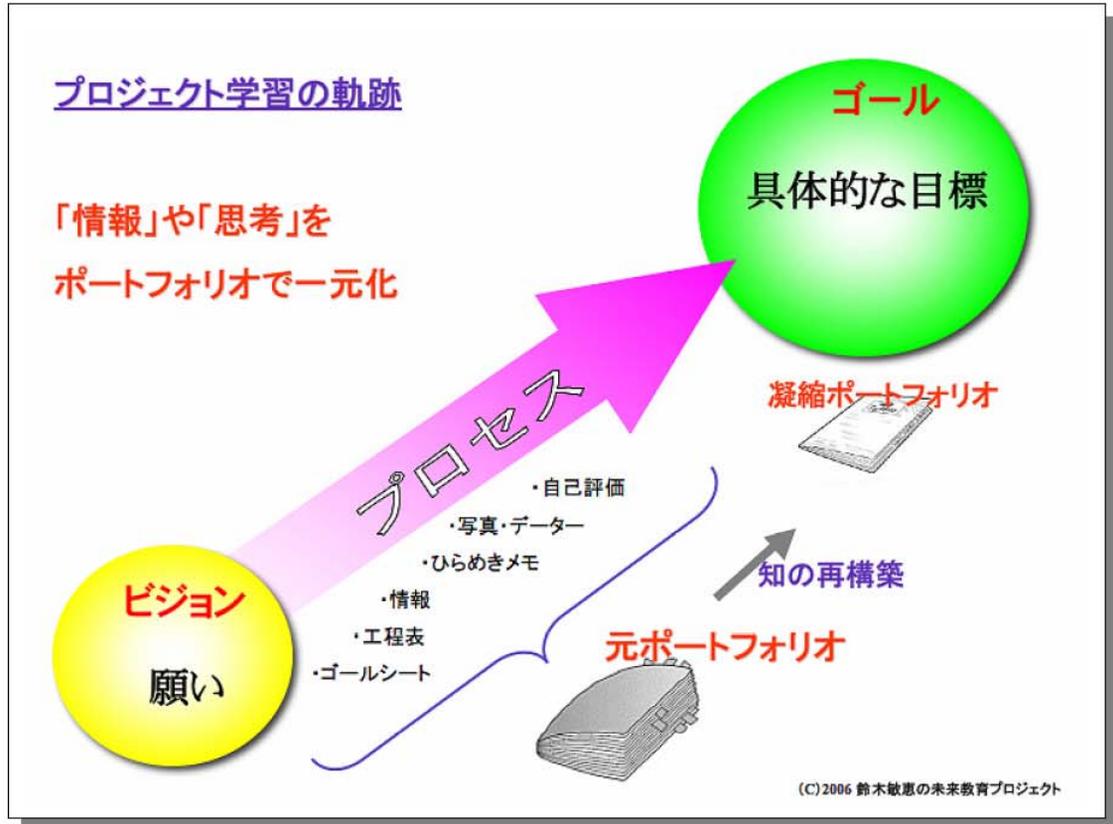
プロジェクト学習とはビジョンとゴール（何のために何をやり遂げたいのか）を明確にする学習です。意志ある学びを叶える新しい教育手法のプラットフォームとして教育界、医療界、自治体などの課題解決力の目標実現手法として広く実践されています。



(C) 2006 鈴木敏恵の未来教育プロジェクト

■ ポートフォリオとプロジェクト学習の関係

ゴールへ向かうプロセスで「考えたこと」や「手に入れた情報」など学習の軌跡を一元化しポートフォリオ（活動歴）にどんどん入れながらゴールへ向かいます。ポートフォリオには、課題発見から課題解決までが時系列で入っています、それを俯瞰することで思考プロセスを自ら可視化することができます。目標達成と評価に活きます。



■ 他者に役立つ成果物=凝縮ポートフォリオ

他者（社会）へ貢献性のあるアウトカムを生むとき、高い知性が養われます。

「地震、防災」を題材にした場合のプロジェクト学習の成果物の例



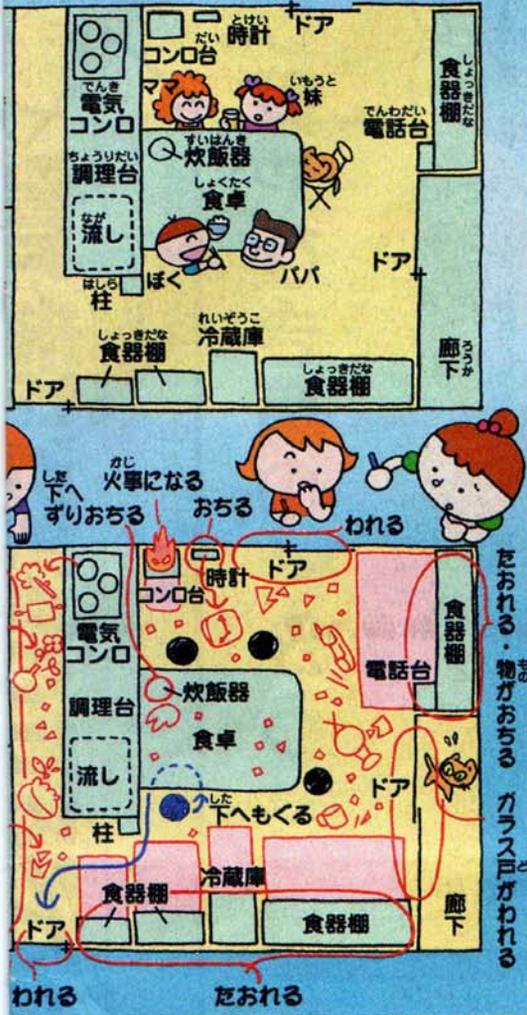
- ① 防災アイデア集(横浜市)
- ② 地震対策知恵集(愛媛県)
- ③ こうすれば助かる！地震対策アイデア集(岐阜市)

これらの成果物は、学習者一人ひとりにわたされると共に、地域の図書館や町会や消防署などに設置されるなど実際に地域の防災意識を高める効果へもつながった。このような成果物を生む防災プロジェクト学習の手順についてはp0以降で詳しく紹介している。

じ し ん そ な

できる地震への備え

家の中の危険をチェック



鈴木敏恵さんの資料をもとにえがきました
イラスト・林 美香詩

【体験・学べるおもしろ施設】
 防災館
 東京都豊島区 ☎03・3590・6565
 県地震防災センター
 静岡市 ☎054・251・7100
 ・淡路大震災記念
 防災未来センター
 神戸市中央区 ☎078・262・5050

「防災プロジェクト」
 各地の小学校で「学習」を指導する千
 葉大学講師・未来教

育デザイナーの鈴木敏恵さんは、震度5
 以上の地震が起きた
 場合、町や家の中が

ガラス戸がわれたり、お皿が横にとん

家の見取り図や町の地図かこうにげ道確かめる

七月二十三日に首都圏で大きな地震がありました。けが人が出たほか、電車がストップしたり、エレベーターが止まって人がとじこめられたりするなど、多くの混乱が

起きました。地震はいつ、どこで起きるかわかりません。小学生にもできる地震へのそなえをまとめました。
 (松村 順子、前田奈津子、植田 幸司)

どんなふうになるのか図で子どもたちに見せています。外では、壁のガラスや看板が落ちたり、たおれた自動販売機や自転車がいげ道をふさいだり。家の中では、食器棚のガラス戸がわれたり、お皿が横にとん

家族がよくいるダイニングキッチンのかき、家具がすわるテーブルの位置もかきま

できたほうがいいです。こうした身の回りの危険を発見するために、家の見取り図上のイラストを参照しをかこうと鈴木さんは提案しています。

朝日新聞の姉妹紙



朝小ホームページ
<http://www.asagaku.com>
 〒104-8433 東京都中央区築地3-5-4
朝日学生新聞社
 電話 (03) 3545-5223 (広報)
 3545-5227 (販売)
 3545-5225 (広告)
 ©朝日学生新聞社 2005
 記事についてのお問い合わせ
 電話 (03) 3545-5222 (編集)
 ご購読の申し込み
 お近くのASA(朝日新聞販売所)、または
 電話 0120-415843(通話無料)
 FAX 0120-415853(通話無料)
 週6日発行します。月曜は休刊です
 1か月1570円、1部70円(各税込み)

公開まであと **4日**



一人のとき大地震がきたら……

「大地震で自分の命を守るの自分だけ！」一級建築士で防災教育指導者の鈴木敏恵さん千葉大講師は言いきります。いつも大人が守ってくれるとはかぎりませぬ。身のまわりの危険を発見し、サバイバル力をみがきましょう。【浜田早代子】

「考える力」こそは、助かる率がちがう「生きる力」。考えてと鈴木さん。一人のとき大地震が

自分の命を守ろう——危険発見編



鈴木敏恵さん

「危ない時間」いつ？

塾の行き帰り 大丈夫かな

おきたら、どうしたらいいの？ 以下の手順で、あなた自身が考えてみてください。

①子どもだけでいる時間を洗い出そう
自分の一日を棒グラフ

②もっとも危ない時間はいつか
赤くぬった時間の中身をしらべましょう。

もっとも危ないと思っただ時間はいつですか？
じつは、鈴木さんが一番心配しているの

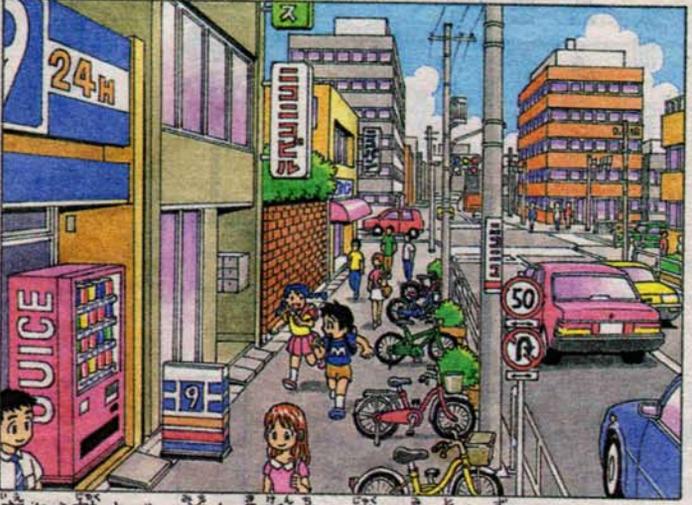
は、行き帰りもふくめた時間はいつですか？
た「塾の時間」です。
塾は町中の雑居ビルにあり、耐震や避難面

で管理がいきとどいていないケースが多いからです。また、登下校とちがって、ひとりです。あなたはどうな道を通って塾に行きますか？
放置自転車がおれそうなの駅前？
看板やガラスが落ちてきそうな商店街？
かわら屋根がふつてきそうな住宅街？
また、その塾はどんなビルの何階にありますか？
避難する階段の幅は何センチですか？
おおぜいの子が殺とうしたら、無事におられますか？
塾の授業は夕方から夜にかけて。火事が発生する危険も高いのです。

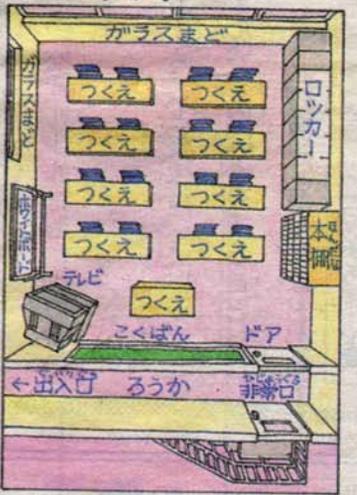
大地震BEFORE



この道が大地震にあったらどうなるか そうぞうしよう
危険と思うものに○印をしてね



家から塾までの道を危険地図にしてみよう 危ないポイントを正確に描き入れること



家から塾までの道を、危険地図に描いてみましょう。
七日は「対策編」、イラストは「大地震

プロジェクト学習 「防災教育」

「防災教育」実践：高知市立大津小学校 6年生

担当：高知市立大津小学校教諭 岡敦子

「未来教育プロジェクト学習」設計：鈴木敏恵

子どもたちが災害に対する恐怖心を乗り越え、すべての子どもが将来必ず起こる可能性が極めて高い、南海地震に備えて「防災力」を身に付ける事をねらいとした学習である。

ねらい	<ol style="list-style-type: none"> 子どもたちに防災力をつけたい。 情報を活用する能力を育てたい。 主体的に取り組むことのできる態度を育てたい。 自己評価力をつけ自分の変化や成長に気付かせたい。
-----	--

準備・意識化
7月・休み ①

テーマ・ゴール
9月 ②

計画
9月

情報リサーチ
10月 ③④⑤

制作
11月 ⑥

プレゼンテーション
12月

再構築
防災パンフレット作り
1月

評価
成長エントリー
2月



① 日本赤十字社の方から全員で防災やボランティアについてのお話を聞く。



② ボードに子どもからでたキーワードを書き、自分が取り組みたいテーマでチーム分け



③ 西南豪雨の救援物資の仕分けボランティアに参加し、下川口小学校等へ届けてもらった。



④ 高知市防災対策室へ情報リサーチに出かけ、防災カメラで高知市の様子を見せてもらう。



⑤ 消防署から起震車をお借りし、南海地震・兵庫県南部地震等の振れ体験を全員が行なった。



⑥ ポートフォリオに入っている情報を付箋に書き出して、情報を整理し、まとめた。

災害に強いまちづくりプロジェクト学習〈テーマ一覧〉

「大津を災害に強い町にしたい！」と大テーマを持ち、17のプロジェクトチームがそれぞれの「テーマ」を決め、「ゴール」を設定してプロジェクト学習を進めていった。

防災プロジェクト/各チームのテーマ一覧

1	地震プロジェクト	地震を調査しすべての人々のために地震に強い県にしたい
2	ビッグウェーブ・プロジェクト	津波を調査し津波対策を学習して、みんなに伝えたい
3	ボランティア・プロジェクト	ボランティアをされて、うれしかったことを調査し、ボランティアにこれから参加する人のために教えてあげたい（下川口小と交流）
4	土砂災害プロジェクト	森林や土砂災害を調査し、大津地域の人々のために、災害を防ぎたい
5	水害プロジェクト	高知豪雨と西南豪雨を調査し、大津と土佐清水の人たちのために町と災害に強くしたい
6	ボランティア・プロジェクト	救援物資を調査し、困っている地域の人たちのために役立つ救援物資を提案する
7	水害（避難）プロジェクト	水害が起こった時のために、防災グッズを大津地区の人たちに知らせたい
8	地震対策プロジェクト	南海地震のことを調査し、地域の人たちのため役に立つ情報を伝えたい
9	火災プロジェクト	地震によって起こった火災を調査し、大津の人々のために、地震の時火災の起こらない町にしたい
10	防災プロジェクト	防災について調査し、大津の人に防災について伝えたい
11	台風プロジェクト	台風の被害を調査し、被害を受けた人たちのために大津を災害に強い町にしたい
12	ボランティア・プロジェクト	いろいろなボランティアを調査し、大津地区の人たちのために喜んでもらえるボランティアを教えたい
13	水害（国分川）・プロジェクト	国分川を調査して、地域の人々のために水害や地震のときに安全に避難できる方法を知らせる
14	南海1・プロジェクト	南海地震について調査し自分達のために、未来のために高知を災害に強い町にしたい
15	2035年前後南海大地震 あーらビックリプロ	南海大地震の被害を調査し、高知県と周辺に住んでいる人の今後のために対策を調査したい
16	非常食プロジェクト	非常食を調査し、災害などが起こった時役に立つ情報を伝えたい
17	災害弱者・プロジェクト	災害弱者について調査し、災害弱者に役立つボランティアを提案する



保護者の方に、防災プロジェクト学習の発表を行いました。



大津地区自主防災組織合同防災訓練で、バケツリレーを体験。

子ども達は、このプロジェクトで「防災力」や「考える力」「目標を立て、達成する力」「地域との助け合い」「チームワーク」など本当にたくさんの力を身につけた。「防災ハンドブック」への評価も高く、この町の役に立つ！という使命感も感じた。彼らの笑顔に誇りがあふれている。

防災教育を<未来教育プロジェクト学習>ではじめよう

未来教育デザイナー / 一級建築士 / 千葉大学教育学部講師 鈴木敏恵